

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(4月20日～4月26日)

2021年4月30日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシエンコ大統領と子息らに対して危害を加える計画が未然に阻止された旨、ベラルーシ当局が発表。(4/17-21)
- ルカシエンコ大統領とプーチン露大統領がモスクワで首脳会談を実施。(4/22)
- ルカシエンコ大統領、大統領権限を国家安全保障会議に移譲するための大統領令への署名の意向を表明。(4/24)

【ルカシエンコ大統領動静】

- ルカシエンコ大統領と子息らに対して危害を加える計画が未然に阻止された旨、ベラルーシ当局が発表。
 - ・ルカシエンコ大統領によると、犯罪を計画した者達は、大統領の子息を一人あるいは二人、捕まえた上で、ゴメリ州の「地下倉庫」に閉じ込めることを企んでおり、(政権)転覆は5月9日に予定されていた。
 - ・容疑者として、米国籍を持つ弁護士ユーリー・ゼンケヴィチ、ルカシエンコ大統領の初代報道官であった政治学者のアレクサンドル・フェドゥータ(両者はモスクワで拘束)、「ベラルーシ国民戦線」党首のグリゴリー・コストウセフらの名を挙げた。(4月21日、本件により刑事事件を提起された容疑者は4名いることが判明したが、4人目の容疑者の氏名は未公表。)
 - ・これに先立つ4月17日、ロシア連邦保安庁(FSB)は、モスクワで拘束されたフェドゥータとベラルーシ系米国人のゼンケヴィチは、軍事力による政権転覆及びルカシエンコの物理的排除を計画していたと発表。FSBの情報によると、ゼンケヴィチはモスクワに到着する前に、米国とポーランドにおいて打ち合わせを行っていた。
 - ・米務省及びホワイトハウス報道官はルカシエンコ親子に対する危害計画の準備への関与の事実を否定し、ポーランド当局も本件に関するあらゆる非難に対して否定した。
- (4/17-21 TUT.BY、ベラパン通信)

●プーチン露大統領との首脳会談(モスクワ)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下のとおり。

- ・我々は連合国家プログラムに沿って真摯な動きを見せている。(統合に向けた)ロードマップは非常に真剣度の高いプログラムであり、そのうち26か27件は政府レベルでは調整済みである。残っているのは、課税についての周知のプログラムを含む、経済的性格を有する2、3件である。
- ・ただし、さらに力を入れるべき喫緊の課題もあり、そこには我が連合国家の安全保障と防衛も含まれる。誰も踏み越えてはならないラインを引いた上で、この荒れ狂った世界において冷静になり友好的に生きるべきであると理解できない者たちに対して、然るべき対応をしよう。
- ・夏にはベラルーシ・ロシア地域フォーラムが行われるが、今年はモスクワ州が開催地となる。その後、秋には最高国家評議会に関する決定を下し、同評議会の場で、特定の文書に署名し、すべての合意を形にすることができよう。
- ・(首脳会談と同日に実施されたプーチン露大統領の年次教書演説について、)大統領としての恒例の、荘厳な時期を終えられたことをお祝いしたい。今回の年次教書演説で、貴大統領が下された決定、特に人間重視の点に、全面的に賛同する。両国は人口動態の面で類似した問題に直面している。そのため、出生率向上や多子家族への支援のための措置が重要である。

プーチン露大統領の発言要旨は以下のとおり。

・連合国家構築に関して、規範的基礎を改良するべく双方が取り組んでいるが、いくつかの問題については立場を調整すべき点が残っている。全体として、両国のチームは非常に効率的に取り組んでいる。両国は軍事技術協力及び安全保障の分野でも、「もっとも広範な意味で」相互協力を深めている。

・(ゼレンスキー・ウクライナ大統領によるドンバスにおける首脳会談実施提案、及び三者コンタクト・グループの開催地をベラルーシから他国に移す可能性についてのウクライナ側の声明について、メディアからの質問に答え、)最近、ウクライナの現指導層は、ロシアとウクライナの間関係を台無しにするような多くの動きをしてきた。それは、二国間関係に直接関係する諸問題に関わる動きであり、ウクライナ指導層のロシア正教に対する扱い、本質的にはロシア正教を崩壊させる試みであり、ロシア語とウクライナ国民の中のロシア語話者に対する扱いであり、ウクライナ在住のロシア国民に対する扱いである。それらについては残念な限りである。ただし、もしゼレンスキー大統領がこの関係を修復し始めたいのであれば、我々はそれを歓迎するばかりだ。

・ドンバス地域の問題について議論したいのであれば、ウクライナの指導層は、ドネツク人民共和国及びルガンスク人民共和国の指導者たちと会談すべきだ。そしてその後で、ここではロシアもそうだが、第三国の代表者とこの問題を議論すべきだ。二国間関係の発展について議論する必要があるなら、我々はモスクワで、先方の都合の良いときにいつでも、ゼレンスキー大統領(との会談)を受け入れる用意がある。

(4/22 大統領公式ホームページ)

●大統領権限を国家安全保障会議に移譲するための大統領令への署名の意向を表明。

ルカシェンコ大統領は、大統領が銃撃されるなど、「突然の場合」に備えて大統領権限の委譲に関する大統領令に署名する意向を表明。

(4/24 ベラパン通信)

【外交】

●米国による対ベラルーシ経済制裁の再発動に対する外務省声明

同声明の要旨は以下のとおり。

・制裁の再発動の決定は遺憾である。この一手は、如何なるレトリックで飾られようとも、事実上はベラルーシ国民の物質的福祉の悪化及び我が国の経済的潜在力、つまりベラルーシ独立の支柱の一つを低減させることを狙ったものである。

・主権と独立は、ベラルーシ国民にとっての不可侵の価値である。米国側は、この問題では決して妥協などないことを、いい加減に理解しなければならない。ベラルーシ共和国は、自らを守ることのできる国であり、けしかけられても動じることはなく、外部から操られることはなく、制裁と制限の影響に屈しない国である。この単純な真理を受け入れることが、相互の問題を解決する助けとなる。

・今までもそうであったように、ベラルーシ共和国は、この米国の破壊的措置から諸企業の数千の従業員と自国民の安寧を守るため、国際レベルを含めてあらゆる力を尽くす。米国側に対する対称的措置を留保する。

・二国間関係における如何なる進捗も、相互尊重に基づく対話によってのみ可能であり、ベラルーシ側は従来どおりその用意があることを強調する。

(4/20 ベラルーシ外務省ウェブサイト)

●アドメナス・リトアニア外務次官、ジュリー・フィッシャー駐ベラルーシ米国大使を一時的にビリニユスで(大使として)登録する可能性に言及。

在ベラルーシ米国大使館は、フィッシャー大使にベラルーシ査証が発給されていない事を認めつつ、同大使のビリニユスでの一時的登録についてはコメントを差し控えた。

(4/22 ベラパン通信)

●グラス外務省報道官、リトアニア外務次官がフィッシャー駐ベラルーシ米国大使を一時的にビリニユスで(大使として)登録する可能性に言及したことにつき、記者会見でタス通信の記者からの質問に答えてコメ

ント

いかなる登録の話なのか、全く理解できない。もしリトアニア外務省が登録するなら、同国では米国の利益を代表する大使が2人いることになる。リトアニアに滞在している大使は、ベラルーシとは何の関係もないことは明白である。

(4/22 ベラルーシ外務省ウェブサイト)

●欧州評議会議員会議(PACE)、ベラルーシに関して2つの決議を採択。

今回採択された決議は、「ベラルーシにおける選挙改革の焦眉の必要性」及び「ベラルーシにおける人権侵害は国際的捜査を要する」の2件。

(4/21 TUT.BY)

【経済】

●ベラルーシ政府、報復制裁の対象となる外国企業製品のリストを策定。

・今回策定された輸入禁止品のリストには、リキモリ(独の潤滑油、添加剤メーカー)、シュコーダ自動車(チェコ)、バイヤスドルフ(Nivea、8x4 などのブランドを扱う独の化粧品メーカー)等の企業が扱う製品が掲載されている。報復制裁の有効期間は半年間。

(4/23 ベラパン通信)

【内政】

●ベラルーシ、国境なき記者団(RSF)が毎年発表している世界報道自由度ランキングで昨年より5つ順位を落とし、欧州諸国中最下位となる180か国中153位。

(4/20 ベラパン通信)

●新型コロナウイルスのワクチン接種後の副反応に関するベラルーシ保健省の発表

・4月21日時点で、COVID-19 ワクチンの1回目の接種が完了した人数は21万1,000人超、また、全ての接種が完了した人数は7万5,000人超。

・ワクチン接種後の合併症の事例は確認されていないが、約10%の被ワクチン接種者において、接種か

ら1~3日後に、一般的(インフルエンザ類似症状、発熱、頭痛等)及び局所的(接種部位の腫れや痛み等)副反応が記録された。

・当国での予防接種には、ロシア製 Gam-COVID-Vac(スプートニクV)及び中国製 SARS-CoV-2 のほか、4月16日からは共和国単一企業「ベルメドプレパレーター」社で製造されたワクチン(Gam-COVID-Vac)が使用されている。

(4/21 TUT.BY)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表、ミハイルスキ駐ベラルーシ・ポーランド大使と会談

両者の議論のテーマは、ベラルーシ政権によるポーランド系少数派への圧力、ベラルーシ政権による人権侵害の証拠収集国際プラットフォームへの支援及び世界的枠組みによるベラルーシ政権の犯罪捜査の可能性、在外国民への支援、ドゥダ大統領との会談及び近隣諸国との協力など多岐に亘った。

(4/20 ベラパン通信)

●ラトウシュコ調整評議会幹部会メンバー、フランス外務省でイザベル・デュモン大統領顧問や外務省高官との一連の会談を実施。

(4/24 ベラパン通信)

(了)